

# “大腸がんホットライン”のお知らせ

当院の大腸がん外科治療について

国立病院機構仙台医療センター 外科

## 腹腔鏡手術

当院では年間約120例の大腸癌手術を行っており、その約8割が腹腔鏡手術です。腹腔鏡手術は傷が小さく、痛みが少なく、術後の回復が早いというメリットがあります。当院では内視鏡外科学会技術認定医（大腸）が在籍しており、積極的にかつ安全に腹腔鏡手術を施行しております。

## 結腸体腔内吻合

結腸癌に関しては再建方法を腹腔内で行う、体腔内吻合を導入しており、これは通常の腹腔鏡手術より侵襲が少ない可能性が示唆されております。



～当院医師によるダヴィンチ直腸癌手術の様子～

## ロボット支援下手術

2018年より直腸癌に対し、ロボット支援下手術が保険収載されました。ロボット支援下手術は腹腔鏡手術よりさらに繊細な手術が可能であり、狭い骨盤腔における手術である低位直腸癌に対して非常に有効な手技であります。当院でもロボット支援下直腸癌手術を積極的に導入しております。2022年4月からは結腸癌に対するロボット支援下手術も保険収載され、ロボット支援下手術がさらに増えていくことが予想されます。

～大腸がんホットライン～

平日 月曜日～金曜日 8:30～17:00

連絡先

TEL: 090-9133-9387

FAX: 022-293-0709

- ・大腸がん治療の予約が即可能です。
- ・FAXの場合は専用フォームでお申し込みください。
- ・専門医師に直接ご相談の場合はお申し出ください。

当院の大腸がん外科治療について

TaTME

肛門にかなり近い腫瘍に対してはTaTME（経肛門的直腸間膜全切除）という手技を導入しており、これを用いることで肛門温存が可能となる症例が増えております。

術前化学放射線療法

局所進行直腸癌に対しては、術前化学放射線療法を施行することで腫瘍の縮小を得てから手術を行う方針としております。それにより本来永久人工肛門が必要であった症例も肛門温存が可能になることがあります。

大腸癌研究会施設会員

当院は、大腸癌治療ガイドラインや取扱い規約を作成するなど日本の大腸癌の研究・診療を牽引している大腸癌研究会の施設会員であり、大腸癌治療の発展に貢献しております。

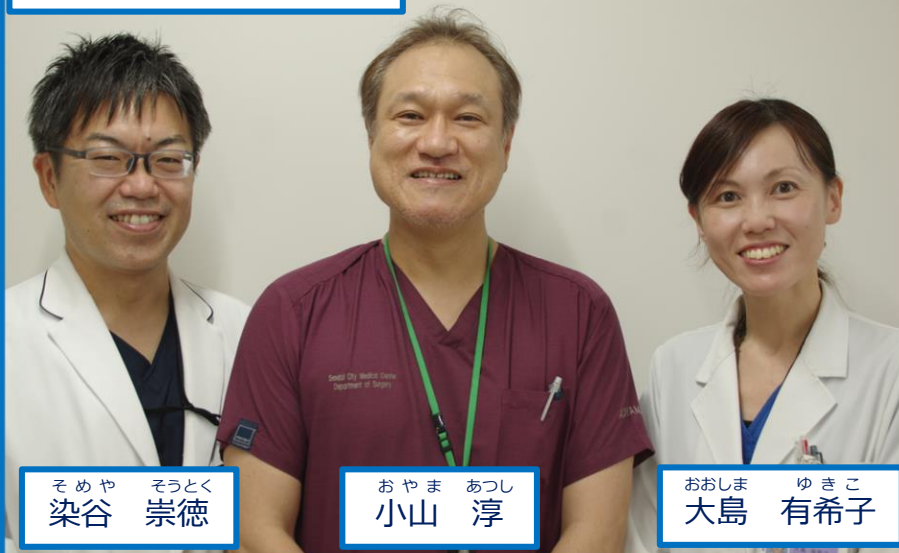
WOCナース

一時的あるいは永久的な人工肛門（ストマ）が必要となる患者様に対しては人工肛門の管理に関する専門的な資格を有しております看護師（WOCナース）が2名在籍しており、ストマ外来を開設しておりますので、ストマが必要な患者様も安心して手術を受けて頂くことができる環境となっております。



スタッフ紹介

外科 下部消化管チーム



そめや 染谷  
そうとく 崇徳

おやま 小山  
あつし 淳

おおしま 大島  
ゆきこ 有希子